

健診検査センターニュース

No. 427 号

運営委員会より

5月20日（木）平成22年度第2回の委員会を開催いたしました。

1. 特定健診について

① 特定健診4月の実施件数は、下記のとおりでした。

	4月受診数	22年度累計	函館市国保受診率
函館市国保	0名	0名	0%
後期高齢者	0名	0名	受診対象者 58,135 人 目標受診率 45%
その他	7名	7名	
合計	7名	7名	26,160 人

個別健診実施機関：5施設／登録機関 116

4月は、社保・組合等のみの受診でありましたが、5月中旬から函館市国保、後期高齢者の受診券交付が始まり、問合せが多数来ております。6月より本格的開始となります。ご協力の程よろしくお願いいたします。

② 函館市国保年金課と保健所より「特定健診」と「介護予防事業」に係わるポスター展示とご協力の依頼があり、26日より登録医療機関様にお配りしております。広く市民の皆様へ周知を図るため、ポスターの掲示とともに患者様への受診勧奨など、ご協力の程よろしくお願いいたします。

2. 22年4月の健診検査事業収入は、下記のとおりでした。

	4月（前年同月比）	22年度累計（前年比）
一般検査収入	95.8%	95.8%
健診収入	100.0%	100.0%
合計	96.7%	96.7%

3. 「総合検査案内2010」「セット検査一覧」「基本ユニット一覧」の配布について

2010年版をお配りしております。部数が足りない場合には、お伺いしております集配担当者もしくは営業担当者へお申し付けください。出来る限り必要な部数をお届けいたします。

《 ちよっと一言 》

その1) 特定健診

いよいよ、6月より本格的に函館市国保、後期高齢者の健診が始まります。今年度の目標受診率は45%となっておりますが、前号でお知らせいたしましたように、昨年度の受診率は19%であり、皆様方に患者さんへの「**受診勧奨**」をお願いしなければ、到底達成できるものではないと思っております。何卒、御協力の程宜しくお願いいたします。

その2) 予告通り学術的な話題を一つ

「**新型インフルエンザ第2波の流行、今秋に来る**」と注意促す

これは御存知の方もいらっしゃると思いますが、第84回日本感染症学会総会のランチョンセミナーでWHOの新型インフルエンザ薬物治療ガイドライン委員である、菅谷憲夫先生が講演されたものであります。

その中で、今年の流行予想について、「今年の秋に第2波が必ずやってくる」と講演されております。

また、「昨年、新型インフルエンザの死亡者が米国では、約1万2千人だったのに対し、日本では198人にとどまった。」と紹介され、この理由として「日本では治療の早期から積極的にタミフルなどの抗ウイルス薬を使用したが、米国ではハイリスク者を除き、重症化して入院後に抗ウイルス薬による治療を始めており、投与が遅れたため」と指摘されております。

併せて、日本では日本産婦人科学会などの協力もあって、早期の抗ウイルス薬投与が行われた結果、妊婦の死亡例はゼロであったことも紹介されており、このため欧米の研究者からは「日本には妊婦がないのか」との反応もあったほどだと紹介されております。

日本ではいくつか新薬が承認され、現場に登場してくるものと思われませんが、「第1波での治療がうまくいったからといって安心してはならない。」と注意を促し、「早期の治療が大切だ」と講演されております。

もし、第2波が襲来した時には、今年の流行時救急体制を活かして、更に動きの軽い救急体制を整備し、新型インフルエンザのみならず、他の救急災害を含め、医師会を中心に行政と連携した体制の確立を早期から話し合い、構築していく必要があるのではないのでしょうか。

・・・ということで、今回のちよっと一言を締めくくりたいと思います。あ、私、製薬メーカーからのリベートは一切頂いておりませんので・・・と、言うことを書き添えて今号は終わりにしたいと思います。

(文責 広報部 平山繁樹)

検査内容変更のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

この度、下記の検査項目の検査内容を変更させて頂くことになりましたので、お知らせいたします。

何卒、ご了承賜りますようお願い申し上げます。

変 更 日 : 平成 22 年 5 月 6 日 (木) より変更

変 更 項 目 : 3281 骨型酒石酸抵抗性酸性フォスファターゼ (TRACP-5b)

	(新)	(旧)
基準値	男性 170 ~ 590 mU/dL 女性 (YAM) 120 ~ 420 mU/dL	男性 170 ~ 590 mU/dL 女性 閉経前 120 ~ 420 mU/dL 閉経後 250 ~ 760 mU/dL
備考	YAM: 若年成人平均値女性の基準値は、健常閉経前女性 (30~44 歳) で確立された平均± 1.96 標準偏差の範囲としています。なお、閉経後女性にも適用されます。	なし

内 容 :

本検査におきまして、女性基準値をYAM値に変更する旨、試薬メーカーより連絡がありました。「従来の閉経後基準値は、骨量減少症患者、骨粗鬆症などの代謝性骨疾患患者を含んでいたため、正常参考値としてより適正なYAM値へ変更する」との趣旨です。

YAM値は「骨粗鬆症診療における骨代謝マーカーの適正使用ガイドライン」に使用されている30~44歳の健常閉経前女性の基準値で、閉経前後に関わらず適用可能です。

検査受託再開のお知らせ

平素より当センターをご利用頂きまして、誠にありがとうございます。

この度、測定試薬の供給中断に伴い一時受託中止とさせていただきました下記の検査項目の代替試薬にて検査受託を再開させていただくこととなりました。大変ご迷惑をおかけしましたが、何卒ご利用賜りますようお願い申し上げます。

実 施 日 : 平成 22 年 4 月 16 日 (金) より再開

再 開 項 目 : 2557 17 α -OH プロゲステロン

備 考	代替試薬の供給は 8 月末までの期限となっており、試薬メーカーより新試薬の供給ができない際には、再度、一時受託中止のご案内をさせていただきますこととなります。予めご了承くださいますようお願い申し上げます。
-----	--

社) 函館市医師会 函館市医師会健診検査センター
TEL 0138-57-6571・FAX 0138-57-6580
E-mail : hako-ken@sea.ncv.ne.jp